撃墜の陰に奮戦
「基地地上隊」血の労苦

[illegible]

……たゞ我々が〔illegible〕期待したいのは〔illegible〕あつても敵〔illegible〕地上で整〔illegible〕いことがある、これに一番困りますね、これとても各自の整備の腕だと思へれば我々がやるべきことをやつてゐるだけですよ」

【対空無電班】某日某時、敵機来襲の報とともに〔illegible〕対空無電班が猛然と活動を開始した
—偵察、索敵、某方某村上空に敵大型来襲機北上中、高度某千
—某々時何分敵情報、某々時は名古屋哨戒、高度某千
—偵察、索敵、某の帰方から〔illegible〕日数、敵の第一目標は高度八千—

トンツーツツートンツーツツツー……交信手の右手が目まぐるしく電鍵をたたく、発動機から力強い内地が前線へ送られて、刻々入つて来る情報が哨戒中の友軍機へ次から次へと送られ作戦命令が傳へられる「感よし、明よし、了解」友軍機と無線連絡は素晴らしく好調だ「とても調子がいいです」通信手の若い顔がほころぶ、哨戒中

〔illegible〕B29を撃墜したのだ—「敵機〔illegible〕」「撃墜〔illegible〕」「敵三番機を攻撃中」と果敢な勇士の力強い肉声が飛込んで来た、情報を乗せた一瞬にやつた「敵機撃墜」ピストの中はどつと歓声が湧く、あらゆる敵機の情報を友軍機

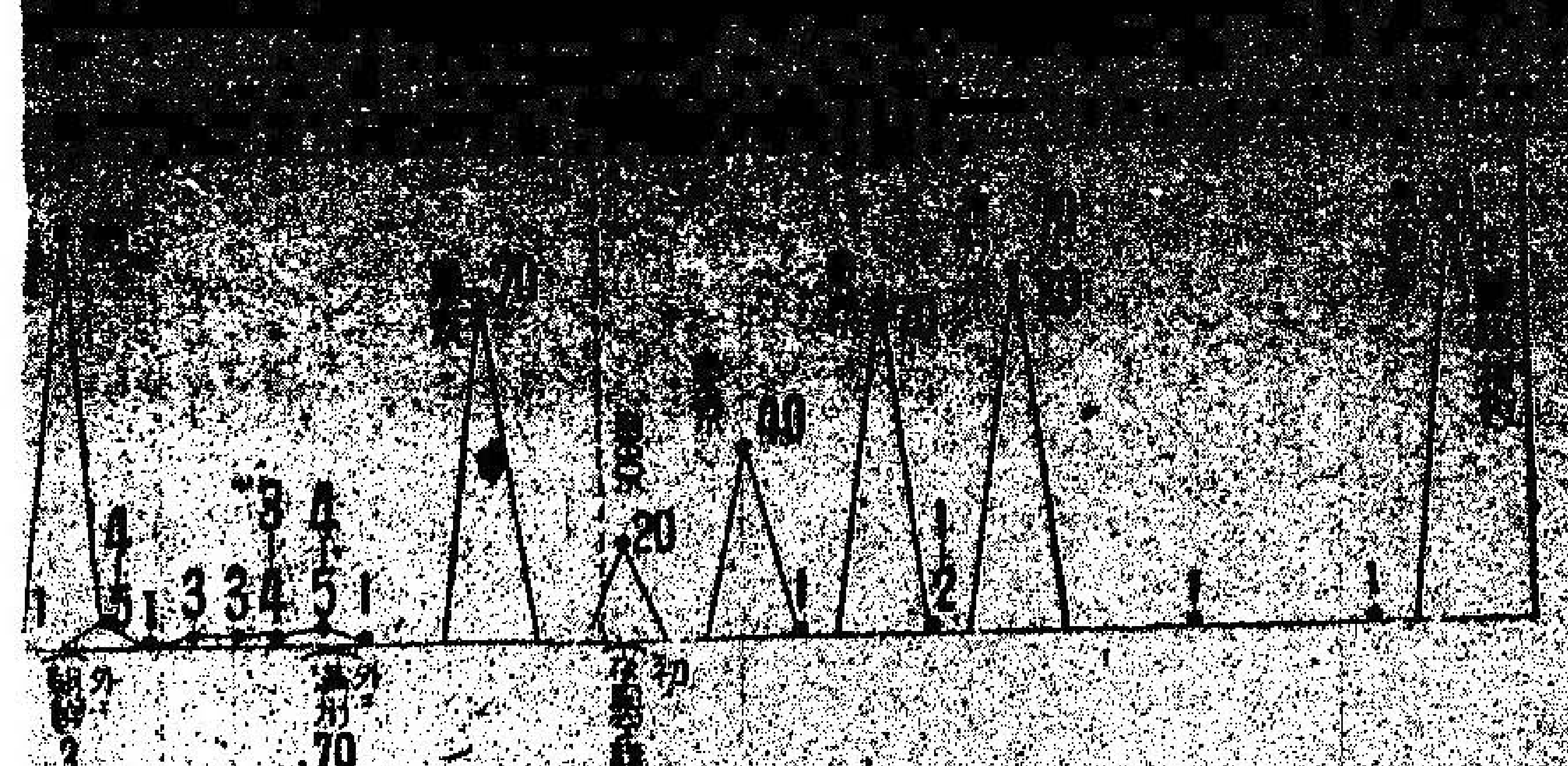
〔illegible〕「空襲警報とわれ〳〵は全く〔illegible〕いへます、〔illegible〕これ以上の気持でないと我々の任務は完遂出来ません、対空無電班は〔illegible〕勤務者の一人々々の気持がすつかり分つてゐねばなりません〝解〟を許さぬ〔illegible〕

〔illegible〕んでゐることが〔illegible〕無線器の〔illegible〕にたつてこの無線がかゝつてゐれば容易に出来ます、しかし高々度飛行の場合から特に誤差を返って來ることがあつてもその場でこれを訂正出來ねば作戦に間に合ひませんから、友軍の哨戒機が〔illegible〕出撃した際などは追撃の場合はこの種々雑多な雑音の中から友軍機の通信を確実に掴むことは熟練した者でも仲々苦労です」ある兵隊さんはかう語つてくれた

【気象班】同じ〔illegible〕の観測所には毎日某国天気図と航空気象図が届けられる、天気図には大東亜の天気、風向、風速などが図示されてあり航空気象図にはさらに詳しく日本全国、外地の天候と各要地毎の雲の状況が図示されてゐる

例へば某日某時の某所の天候は曇天、上層、中層の雲量、雲形、下層雲の雲量、雲形といつた風に航法に必要な事項はすべて書込まれてゐる、そこで天気図を見れば気象上の見地からマリアナ基地からのB29の来襲判断が出来るし、航空気象図によるとわが本土の某要地から某要地への飛行経路がわかる上、空中交戦の際の雲の判定もつくし、攻撃上危険度の判定の〔illegible〕も判断されるといふわけだ

こゝ某地にはこの陰の道場を日夜一刻の休みもなく孜々として作成しつゞけてゐる陸軍気象部隊がある、観測者は雨の日も風の日も二六時中兵隊さんが測候を送り、雲形や高度、風向、風速、視程等々〔illegible〕



〝B29〟本土來

〔illegible〕来襲は七日の週期

〔illegible〕および〔illegible〕基地から飛び立つたB29が東京、名古屋、北九州をはじめ〔illegible〕列島内地各地に出現し、〔illegible〕にマリアナの敵の兵力の増強に伴つてゐるが、敵の来襲がやうやく頻繁となつてきた昨年十月末から今年七日まで本土に出現した敵の来襲日、機数、目標地点を統計的に調べてみよう

◇

まづ二、三十機乃至九十機の大型機の大挙空襲をみるに北九州五回、東京六回、名古屋六回の出撃を見、その来襲機数は九州二七〇機内外、東京三二〇機内外、名古屋約四七〇機であり

これ以前六月十六日二十機内外の第一回北九州来襲をはじめ八月二十日昼間九州へ八十数機、同廿日九州、中国西部八十機、同廿一日北九州約二十機を数ふれば九州出撃は九回（延機数五一〇内外）となる、またこれらの来襲は大体五—七日の週期をもつて繰返されており、空襲がわれ〳〵日常生活の一齣となつた昨年十二月以来来襲皆無だつたのは僅かに十二月一、二、四、五、十六日および一月二日の六日間にすぎない

夜襲のなかつたのは十二月、一月を通じて僅か九日であり帝都方面では〔illegible〕

少数機には「情報」のみ
敵機の警戒に中軍の新手

十八日朝マリアナ基地を出発したB29一機は偵察を企圖して阪神地区上空に来襲した、阪神地方に対する特に偵察を目的とする敵機の来襲はこれで三回目であり、東京、名古屋についで今度こそ京阪神地区を狙ふ敵の魂胆が露骨に示されてゐるが、この日中部軍では特に警報を発令せず、たゞラジオによつて敵機の情報を刻々に放送して一般の注意と警戒を喚起するといふ新なる方法を初めて実施した、これは少数機の来襲の際、徒らに敵の神経戦に乗せられぬやうにすると同時に、片時も生産の手を緩めまいとの決死覚悟に即應するためで、今後もこの方法が適時とられるものとみられるが、軍では特に左の点に注意するやう要望してゐる

従来から軍では警報発令は最低限度にとゞめ、なるべく警報を出さないやうにしてゐる、これは寸時も生産に支障遅滞ながらしめようとするためと、防空要員および一般市民の神経を疲れさせまいとの親心によるものであるが、ラジオによる「中部軍情報」の聴取も大体普及して来たので更に一歩進めて少数機の場合は敵機の情報を刻々ラジオで知らせるだけで、警報を発令せぬといふ新しい試みを十八日の来襲の際採用した、したがつて今後も少数機の場合はこの方法がとられるわけであるか、特に注意しなくてはならぬのは、いままでにもましてラジオに注

爆撃の跡に起ち上る京都市

味噌値上げ

〔illegible〕小売価格を〔illegible〕二十日公布即日施行する、右により小売価格では一貫目〔illegible〕の値上りとなり、〔illegible〕十五銭となる

あす鵜飼本社員社葬

〔illegible〕

横山報道班員負傷

【〔illegible〕西前線中尾報道班員十八日発】〔illegible〕前線に従軍中の横山〔illegible〕報道班員（〔illegible〕）は〔illegible〕十三日午後八〔illegible〕ころ〔illegible〕附近で敵機の〔illegible〕をうけ右大腿部骨折の重傷を負つ〔illegible〕

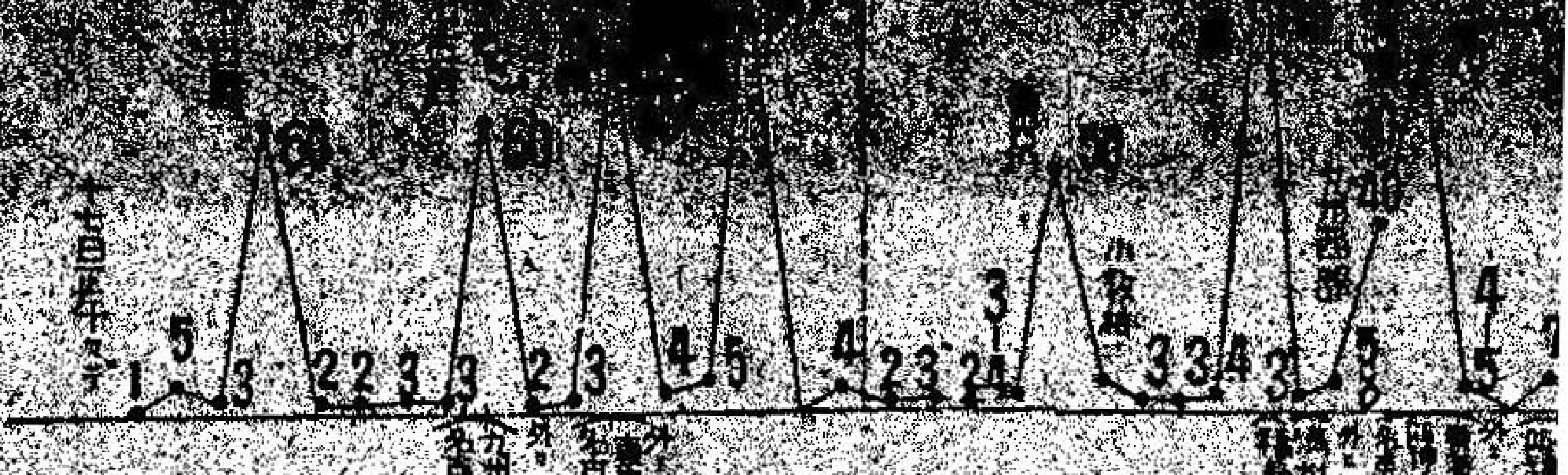
証券市場
釘付け

〔illegible〕場面すみを銀行株、新鉄株や東日鉄などの國策株の一角から引き続き〔illegible〕に堅調保合ふつてゐるが〔illegible〕殆んど釘付けの商状、なほ後場は警報のため寄付一節立會つたのみで臨休した

中値（最終値）

[illegible]

朝日
京都版
20-1-20
マイクロ
フィルム



襲の跡

…宣傳的に神經戰を狙ふ企図が試みられてゐる、なほ

阪神地方 初空襲は第一回名古屋爆撃の十二月十五日B29一機をもつて行はれ、戰果について昨年中に收めたもの撃墜一五八機、撃破一四六機で本年一月以降現在までに殆どそのもののみでも撃墜四十機、撃破八十機以上にのぼり更に擴大の見込みであるが、これによつてみても制空部隊により實に來襲延機數の三〇％を屠る赫々たる戰果の擧げられたことを知るのである

いまこの戰果を貨幣にはじくと次のやうな厖大な數字となり、金に糸目をつけぬ敵としてもその痛手は甚だ深刻なものがある、B29一機の製作費はざつと六八〇万ドルで撃墜破四三一機の總計は二億九三〇〇万ドル、さらにB29の乘員たちには一人當り八〇万ドルの賞金がかけられてゐるといはれるから一機の乘員十二名として五、一七二名の賞金は四一億三七六〇万ドル、これをひつくるめると飛行機の製作費と乘員にかけられた賞金のみでも四四億三〇六〇万ドルといふ巨額に上つてゐるのである

民．十六日夜半來襲したB29爆撃の跡の復舊作業に敢闘する隣組の人々

あすから直通運轉
乘車券は極度制限
東海道線

（大阪局十九日午後二時發表）[illegible]

[illegible]（門司）發一〇・三〇大阪發九・三〇東京着一〇・二二）二十日下關發から運轉△四列車（鹿兒島發一〇・三〇大阪發一〇・三〇、東京着二一・二二）二十日鹿兒島發から運轉△八列車（大阪發二〇・〇〇東京着八・〇〇）二十日大阪發から運轉△十四列車（大阪發二二・〇〇東京着九・〇〇）休止中のところ二十一日大阪發から運轉▲六列車（門司發一〇・〇〇大阪着一二・三〇東京着一〇・〇〇）二十日門司發から運轉[illegible]

[illegible]通▲三列車（東京發一〇・三〇大阪着二一・三五、鹿兒島着二〇・三五）二十一日の始發から直通△五列車（東京發一〇・〇〇、大阪發七・四〇、門司着一九・四〇）二十一日東京發から直通、同日まで從來現在通り京都始發△七列車（東京發二二・〇〇、大阪着八・四〇）二十一日東京始發から直通△一〇三列車（東京發三・〇〇、大阪着九・四〇）現在休止中を二十一日から東京始發から直通

（臨時列車）より第四列車（鹿兒島行）、[illegible]列車（東京行）[illegible]、[illegible]列車（[illegible]京發、鹿島行）四三列車（東京發、鹿島行）は二十日の始發から、その他は二十一日から直通、また下り第三五列車（東京發、大阪止）は大阪、姫路間延長運轉し二十一日始發から直通、さらに運轉休止の一〇三列車（大阪發、東京行急行）一〇一列車（東京發、大阪行）は同日運轉休止、二三列車（沼津發、大阪着）は二十一日から運轉休止、四三列車（鹿島發、東京行）は二十一日から、阪、東京間の運轉を休止、大阪から一四〇列車（大阪發一六・〇〇、東京着五・五五）として運轉する

東海道線一時不通
蒲郡附近の事故

（名古屋電話）十八日午後三時三十分頃東海道線二川驛構内伊良湖踏切で自動車と下り貨物一七二列車と衝突、機關車と貨車數輛脱線顛覆し上下線とも不通となつた、乘務員三名、列車は折返し運轉を行つたが、上りは十九日午後二時三十八分、下りは同午後七時開通、なほ十八日午後八時五十分頃蒲郡、須原間で旅客八二三列車が脱線したため中央線が不通となつてゐたが、これも十九日午後四時開通（名古屋）

東武鐵道の事故

東武鐵道日光線壬生驛[illegible]十九日午前六時三十分ごろ春日部發栃木行き下り電車と柏發大宮行き上り電車が[illegible]電車運轉手の信號無視のため正面衝突し、死者七名、重傷十二名、輕傷十七名を出した（宇都宮）

[illegible]しておくことである、情報がはいつても生産の手は緩めることなくかたはら刻々の敵機の動きを注視しいざといふときにはすぐ防空活動に移りうる準備をすることである、かうすることによつて始めてこの新しい方法の採られた意義が生きるわけである

氣象状況を觀測してゐるしまた地上報告では觀測資料に基づいて日に米國天氣圖が作成されるほか一時間毎の航空氣象圖から大氣線圖、大氣斷面圖など各種の氣象圖が調製されて高射砲部隊のための特殊の氣象觀測を行つてゐるのである

しつかり固めよ防空生活

二月の旗印

常會徹底事項を"防空生活をしつかり固めよう"と決定、空襲が如何に激しからうとも前線への兵器補給に一瞬のゆるみも起すなと一億特攻魂を呼びかける

實行事項 △空襲を物ともせず強い身體を鍛へよう―長期の防空生活から身體を護るため大いに神經をもつて睡眠を十分にとり、うがひや乾布摩擦、體操で鍛錬や抵抗の傳染病を予防、特に妊産婦、乳幼兒の保健に氣をつけよう△隣組精神で防空生活の工夫をしよう―ツネを集めて創意と工夫を活かして二三軒でも手負だけでもいゝから時々の共同炊事をやらう、衣料疎開や生活用品の保管設備、罹災者への温い世話など準備を整へよう△空襲に備へて手持現金は貯蓄しよう―預金さへしておけば燒けても紛失もしない、どこの銀行からでもまた期限つきのものでもすぐ引出せるし、國債貯金も現金で出せる、たゞ通帳や國債、債券の記號、番號を必ず控へて置かう、すぐ手續がとれるから

東海近畿米穀增産對策會

農商省主催の東海近畿米穀增産對策協議會は十九日午後一時から京都府廳で開催各府縣から農務部長、主任技師等が出席、近畿地區二府八縣二十年度米穀增産に對し農商省派遣の[illegible]、[illegible]技師、小山技師らが米穀增産の栽培技術面の諸問題について[illegible]した引つゞき二十日も開く（京都）

放送

二十日

【朝】七・〇〇「[illegible]ない街」石川[illegible]・四五話「木馬」[illegible]さく▲一一・〇〇[illegible]科「人力飛行機は[illegible]ぬか」航研所員木[illegible]

政【第一】〇・一五職場のうた[illegible]榮」[illegible]今年日本經濟[illegible]▲一一・[illegible]く▲一二・三〇「[illegible]の見方」[illegible]【第二】子寶を[illegible]に育兒の實際「乳幼兒」[illegible]助教授[illegible]小路實[illegible]▼[illegible]▲五・三〇家庭園藝「今年の設計」大阪府立[illegible]學校[illegible]【夜】「[illegible]の栽培」[illegible]長崎[illegible]六〇[illegible]大[illegible]國民學校兒童[illegible]マンドリン合奏[illegible]▼大阪放送[illegible]民合唱▲七・〇〇[illegible]▲六・五[illegible]・四〇三味線[illegible]

▽「特攻隊讃歌」[illegible]川本白林

[illegible]

16022013

敵機來襲は十七日の週期

サイパン[illegible]およびグアム基地から飛び立つたB29が[illegible]襲、北九州をはじめ[illegible]晝夜の別なく內地各地に出撃し[illegible]にもゲリラ的戰法を試みて國內の戰力破壞に躍起となつてゐるが、敵の來襲がやうやく頻繁となつてきた昨年十一月末以來十七日正午まで本土に出撃した敵の來襲日、機數、目標地區などを統計的に調べてみよう

◇

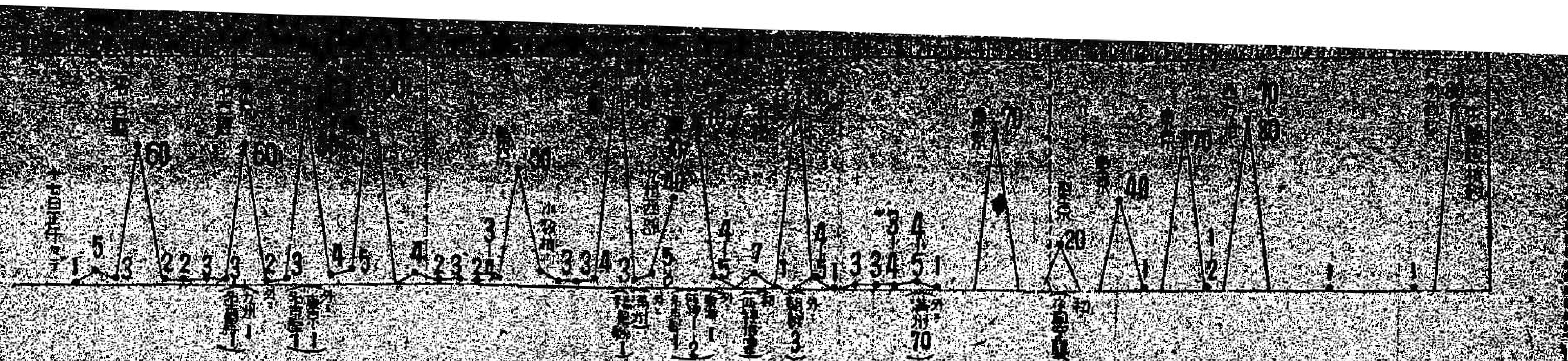
まづ二、三十機乃至八、九十機の大編隊をもつてする北九州五回、東京八回、名古屋八回の出撃を見、その來襲延機數は九州二七〇機內外、東京三三〇機內外、名古屋約四七〇機であり

これは前八月十六日二十機內外の第一回北九州來襲をはじめ八月十一日朝九州へ十數機、同廿日九州中國西部へ八十機、同二十一日北九州に二十機を數ふれば

九州出撃は九回（延機數五一〇內外）となる、またこれらの來襲は大體五―七日の週期をもつて繰返されてをり、空襲のおそらく日常生活の一齣となつた昨年十一月以來來襲皆無だつたのは僅かに十一月二、三、四、五、十六日および一月三日の六日間にすぎない、夜襲のなかつたのは十二月、一月を通じて僅か九日であり名古屋方面では約[illegible]週間で深夜および拂曉前の三回にわたり定期便的に神經戰を狙ふ出撃が試みられてゐる、なほ

阪神地方 初空襲は第二回名古屋空襲と同日の十二月十五日B29一機をもつて行はれ、戰果については昨年中に收めたるもの撃墜一五八機、撃破[illegible]機で本年一月以後現在までに發表のもののみでも撃墜四十機、撃破八十七機以上にのぼり更に擴大の見込みであるが、これによつてみても制空部隊により來襲延機數の三分の一を屠る輝かしき戰果の擧げられたことを知るのである

いまこの戰果を金額にはじくと次のやうな厖大な數字となり、金に糸目をつけぬ敵としてもその痛手はすこぶる深刻なものがある、B29一機の製作費は六十萬ドルで撃墜破四三一機の消耗は二億五[illegible]萬ドル、さらにB29の乘員たちには一名約八〇〇ドルの賞金がかけられてゐるといはれるから一機の乘員十二名として五一七二名の乘員に四一三萬七六〇〇ドル、これをふくめると飛行機の製作費と乘員にかけられた賞金のみでも二億[illegible]萬ドルといふ巨額に上つてゐるのである



B29本土來襲の跡

[illegible]名古屋地區[illegible]侵入機[illegible]に入る、高度、速度[illegible]六千[illegible]「目標撃墜」[illegible]八千[illegible]

トン・・・トン・ツー・ツー・ツー……通信手の右手が目まぐるしく走る、電鍵をたゝく、無線電話から力強い肉聲が宙へ送られて刻々入つて來る情報が哨戒中の友軍機へ次から次へと送られ作戰命令が傳へられる「感よし、明よし、了解」友軍機の無線連絡は素晴らしく好調だ「とても調子がいゝです」通信手の若い顔がほころぶ、哨戒中

爆撃の跡に起ち上る京都市民 十六日夜半來襲したB29の爆撃跡の復旧作業に敢闘する隣組の人々

少數機には「情報」のみ

敵機の警戒に中軍の新手

十八日朝マリアナ基地を出發したB29一機は偵察を企圖して阪神地區上空に來襲した、阪神地方に對する特に偵察を目的とする敵機の來襲はこれで三回目であり、東京、名古屋についで今度こそ阪神地區を狙ふ敵の魂膽が露骨に示されてゐるが、この日中部軍では特に警報を發令せず、たゞラジオによつて敵機の情報を刻々に放送して一般の注意と警戒を喚起するといふ新なる方法を初めて實施した、これは少數機の來襲の際、徒らに敵の神經戰に乘せられぬやうにすると同時に、片時も生産の手を緩めまいとの決死増産に即應するためで、今後もこの方法が適時採られるものとみられるが、軍では特に左の點に注意するやう要望してゐる

從來から軍では警報發令は最低限度にとゞめ、なるべく警報を出さないやうにしてゐる、これは片時も生産に支障遲滯なからしめようとするためと、防空要員および一般市民の神經を疲れさせまいとの親心によるものであるが、ラジオによる「中部軍情報」の聽取も大体普及して來たので更に一歩進めて少數機の場合は敵機の情報を刻々ラジオで知らせるだけで、警報を發令せぬといふ新しい試みを十八日の來襲の際採用した、したがつて今後も少數機の場合はこの方法がとられるわけであるが、特に注意しなくてはならぬのは、いままでにもましてラジオに注意し、つねにスイッチをいれておくことである、情報がはいつても生産の手は緩めることなくかたはら刻々の敵機の動きを注意し、いざといふときにはすぐ防空活動に移りうる準備をすることである、かうすることによつて始めてこの新しい方法の採られた意義が生きるわけである

[illegible]れる、天氣圖には大氣臣の天氣、風向、風速などが圖示されてあり、航空實況圖にはさらに詳しく日本全國各地の天候と各變化點の雲の狀況が圖示されてある

例へば某日某時の某所の天候は曇天、上層、中層の雲量、下層の雲量、雲形といつた風に航法に必要な事項はすべて書込まれてゐる、そこで天氣圖を見れば氣象上の見地から大陸あるひはマリアナ基地からのB29の來襲判斷が出來るし、航空實況圖によるとわが本土の某要地から某要地への飛行經路がわかる上、雲中突破の際の[illegible]たる資料、危險層の判定もつくし、攻擊上の氣象の利用も判斷されるといふわけだ

こゝ某地にはこの天氣圖の道標を日夜一刻の休みもなく孜々として作成しつゞけてゐる陸軍氣象部隊がある、觀測者では雨の日も風の日も二六時中兵隊さんが[illegible]器や[illegible]、測風器等々各種の觀測器材と取組んで懸命に氣象狀況を觀測してゐるしまた通報所では觀測資料に基づいて日に一回天氣圖が作成されるほか一時間毎の航空實況圖から大氣線圖、大氣斷面圖など各種の氣象圖が調製され高射砲部隊のための特殊の氣象觀測も行つてゐるのである

南方ボルネオ[illegible]に赴任の途中海上で散華した朝日新聞社[illegible]局[illegible]の[illegible]は廿一日一時から郷里の愛知縣碧海郡[illegible]町自宅で執行

横山報道班員負傷

【廣西前線中尾報道班員十八日發】前線に從軍中の横山英志報道班員（同盟）はさる十三日午後八時ごろ廣西省全縣附近で敵機の盲爆をうけ右大腿部骨折の重傷を負うた

證券市場

十九日

釘付け

新税案發表を織込みで無反發、全く動意ない閑場面をみせ銀行株、鐵鋼株や東日鉄などの國策株の一角から引き頭気含みに[illegible]り保合ふつてゐたが、引けにつくくらゐで相場殆んど釘付けの商状、なほ後場は警報のため[illegible]一部立會つたので臨休した

仲値（最終値）

[illegible]

東海道

あすから直通運轉

乘車券は極度制限

（大阪局十九日午後三時發表）東海道線は輸送の都合上、昨年十二月から直通旅客の取扱[illegible]

[illegible]關發一〇・三〇、大阪發九・三〇、東京着[illegible]、二十日下關發から直通△四列車（鹿兒島發[illegible]、大阪發一〇・三〇）二十日鹿兒島[illegible]

[illegible]通▲三列車（東京發一〇・三〇、大阪發二一・三九、鹿兒島着二二・一五）二十一日の始發から直通△六列車（東京發一〇・〇〇、大阪發七・四〇、門司着一[illegible]

[illegible]京發、疎開〕西三列車（東京一三時三十分發、疎開）は二十日の始發から、その他は十一日から西七列車と新たに下り第三五列車（東京發、大阪止）は大阪、姫路間延長運轉し二十一日始發から直通さらに運轉休止の一〇一列車（大阪發、東京行急行）一〇[illegible]七時間遲、たゞ[illegible]午後二時三十分、下りは同午後[illegible]

[illegible]

しつかり固めよ防空生活

二月の旗日

[illegible]では二月の常會徹底事項を"防空生活をしつかり固めよう"と決定、空襲が如何に激しかろうと職域への突撃精神に一瞬のゆるみも起すなと一億特攻魂を呼びかける

實行事項 △空襲を刎ね返す強い身体を鍛へよう―長期の防空生活から身体を護るため[illegible]神經をもつて睡眠を十分にとり、うがひや乾布摩擦、[illegible]で感冒や悪性の傳染病を予防、待避してゐる間も暖衣や運動で冷込まぬよう、特に妊産婦、乳幼児の保護に氣をつけよう△隣組精神で防空生活の工夫をしよう―[illegible]を集めて創意と工夫を生かして二三軒でもよいから時々の共同炊事をやらう、衣料疎開や生活用品の保管設備、罹災者への温い世話など準備を整へよう△空襲に備へて手持現金は貯蓄しよう―預金さへしておけば焼けても紛失もしない、どこの銀行からでもまた期限つきのものでもすぐ引出せるし、たゞ通帳や證書、債券の記號、番号を[illegible]

放送

▽「特攻隊讃歌」＝本日

二十日

【朝】七・〇〇「ない街」石川[illegible]・四五語「木馬[illegible]さく」▲一一・〇〇科「人力飛行機[illegible]ぬか」航研所員[illegible]政【晝】〇・一五職域のうた‥日本浪曲協會▲一二「空襲と乳幼児」阪大助教授[illegible]【夜】子宝家庭に育兒の先く▲一・三〇「雨の見方」小路実[illegible]▼提琴独奏[illegible]▲五・三〇家庭國策「今年[illegible]